

Heartful Day

北条高校人権委員会
平成29年6月14日
No.111

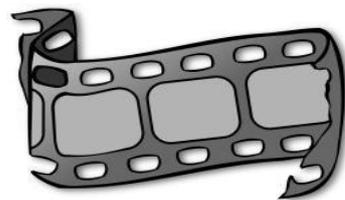
* 人権映画「あん」を鑑賞して *

今回のハートフルデーは、6月1日（木）に行われた人権映画「あん」鑑賞会の感想を紹介します。

* 正しい知識を持とう！

ハンセン病について知っておくべき知識を、もう一度、まとめました。

前回のハートフルデーの放送や、映画を思い出しながら、学習しましょう。



- ☆ 映画の中で「らい」という言葉が出てきていましたが、「らい」という言葉は、差別や偏見を助長するため、使いません。
- ☆ ハンセン病は、らい菌という菌による感染症ですが、らい菌は感染力が非常に弱く、日常生活で感染することはありません。
- ☆ 徳江は、ハンセン病回復者（元患者）であり、患者ではありません。つまり、徳江からハンセン病がうつることは、絶対にありません。
- ☆ 徳江は、療養所から出て「どら春」まで来ていましたが、「らい予防法」が廃止される1996年（平成8年）までは、療養所から外出することは禁じられていました。
中学生の頃に隔離された徳江は、ハンセン病が治った後も、何十年もの間隔離され続けて、外出さえできないまま、年を重ねました。
- ☆ 今も療養所で暮らしている方々があります。強制隔離によって人権を奪われてきた方々の、人権回復はまだ途中なのです。

* 人権映画「あん」を鑑賞しての感想

- ☆ 私はこの映画を見るまでハンセン病のことを知りませんでした。強制隔離されていた人がいることや、そのせいで二度と社会に出られなくなった人がいることも知りませんでした。人々のハンセン病に関する知識が薄かったことが、強制隔離が続いた理由の一つだと思います。だから、何事も他人事と捉えて無関心で終わらせるのではなくて、何事にも興味を持って、いろいろなことを知っていくべきだと思いました。 【1年次女子】

☆ 人権とはどのようなものなのか、知っているようで分かっていない気がします。少なくとも、心ない噂が広がっていく時には、その噂が広がることを止めることができる人でありたいです。言うことや書くことは簡単だけど、書いたことを守る人でありたいです。その為に、相手の気持ちを考えて行動し、人として当たり前のことを実行したいです。今の状況を変えるのも、変えずに生きるのも自分次第だと思います。 【1年次男子】

☆ もし私が中学から今まで人権学習をしていなかったら、この映画を見ても、あまり感情移入できず、店のオーナーの奥さんの間違った差別発言を聞いてもイライラすることはなかったと思います。

自分に知識がなければ何も考えられなかっただろうと感じ、この映画を鑑賞したことで、改めて「人権学習は大切だなあ」と思いました。

噂によってドラ焼きが売れなくなった時、胸が苦しくなりました。ハンセン病は治る病気だし、徳江さんから感染することはありません。もっと知識を持って、事実を語れば良いのにとイライラしました。やはり無知であることはとても恐いなと感じました。 【2年次女子】

☆ 私は、人から聞いた情報を丸ごと信じたり、本当かどうかを確認したことでもないのに勝手に言ったりしないように気をつけたいです。

これから関わっていく人の中にも、色々な問題を抱えた人がいると思います。たくさんの人の中で自由に生きられる社会を作るためには、相互の理解を深めることが大切で、偏見や差別を無くしていくためには、私たちが知っている情報だけでは足りないと、改めて感じました。

自分のためにも、周りの人達のためにも、もっとたくさんの正しい情報を学んでいきたいです。 【2年次女子】

☆ 中学の頃という若い時に、自分の生きる道を閉ざされて、今になってやっと普通の生活ができるようになった徳江さんにとって、「あん」は徳江さんの命そのものだったのかなと思います。ハンセン病に関する間違った知識で、隔離されて人権がないように扱われてしまった人がいて、もしもそれが自分だったらと考えると、すごく恐ろしいです。

間違った知識で苦しんだり悩んだりする人がいなくなって、明るい未来を作っていくためには、今の世代の私たちが未来の世代に間違った知識を広めないことが大事だと思います。 【3年次女子】

☆ この映画の中で一番心に残った言葉は「自由なんだから」という言葉です。人は生まれた時から自由であって、その自由や人権は、決して奪われてはいけないと思いました。映画の中では、噂をうのみにしてしまった人たちが人権を奪いました。だから、根拠のない噂をうのみにせず、しっかりと周りも見ることができる目を持ちたいです。 【3年次男子】

私たちは、この世を見るために、聞くために、生まれてきた。

…だとすれば、何かになれなくても、私たちには生きる意味があるのよ。